

Anamnesis

系統だった問診とはどのようなものなのか。なぜ問診が必要なのか。

クライアントに適切で効果的な施術を行うために、問診、視診、触診、問診の基礎堅めをしっかりとマスターするのがModule 0である。

本日のコンテンツ

2010年7月4日

問診の復習

問診の目的は？

問診はなぜ必要なのだろうか？クライアントに必要性を十分説明できるか？

問診に必要な項目とは何か？

フィジカルアセスメント

問診、視診、触診、問診



木を見て、森を見る

クライアントの気になる症状に耳を傾け、とりまく社会にも目を向ける。



ケースシナリオ

3つのシナリオを通して、クライアントの見方を学んでいく。



問診票は情報整理のツールである。

問診票を埋めることが、問診の完成ではない。

問診票の基本骨格

問診票には3つの基本骨格が必要である。

- ①クライアントの基本情報
- ②クライアントのニーズの抽出
- ③リスク分析の基本情報



クライアントの書いた文字や文章はどうだろう？字体、筆圧、内容、記述量、文字の色などから何かを感じ取れるか？

クライアントの基本情報

年齢は疾患の好発年齢の参考となる。

たとえば若年者の頭痛であれば脳腫瘍の鑑別が必要である。壮年期であればくも膜下出血の可能性もある。

住所は、遠方からの来院なのかどうか分かる。一人暮らしなのかどうかや生活のステータスを推し量る参考情報となる。

交通量の多い地域であれば、排気ガスによる呼吸器疾患のリスクが見え隠れする。

家族構成は、クライアントをとりまく生活環境に問題点がないかどうかを推し量る大切な情報源である。

育児問題、夫婦問題、介護など、目に見えないストレスがクライアントの生活に歪みをもたらしている可能性が潜んでいる。

職業では、職種による特徴や職場環境が重要である。

デスクワーク、それとも立ち仕事が多いのか。

騒音がひどい環境では、頭痛や耳鳴りの原因となりかねない。重量物を扱う環境では筋骨格系の疾患を生じる可能性がある。ちなみに宅配便のスタッフは、ノルマ達成の重圧から消化性潰瘍を生じることがある。

問診票と問診

問診票は、情報を収集するためのツールである。

クライアントの基本情報、クライアントのニーズの抽出、リスク分析のための情報収集が基本骨格となる。

問診は情報を整理するメソッドである。

情報の取舍選択、情報の補足などを行い、系統だった情報整理を行うことが目標となる。

クライアントのニーズの抽出

クライアントは、何を望んで来院したのだろうか？

セラピーを受けることで、自分がどうなることを望んでいるのだろうか？

クライアントは何に悩んでいるのだろうか？

クライアントが気にしている症状を、身体の面、心の面から探る必要がある。女性の場合は、妊娠や生理についても情報収集が必要である。

選択枝は、必要最低限にとどめる。『その他』の項目として自由表記のスペースを確保する。

心の面に関しては、ビジュアルなスケールが効率的である。ただし、症状・行動の選択枝も必要である。なぜなら、クライアントがこれまで気づかなかった症状や行動について、問診票によって初めて気づく場合があるからである。

問診票は、クライアントが理解できる言葉で選択できるようにする。効率よく情報を収集するには、文字のほかに絵を用いることを考える。

びっしりと書かれた質問項目が数枚に及び問診票に、あなたは答えたいと思うか？

問診票のレイアウトを考える場合、『シンプル』こそ大切なコンセプトである。『余白』の使い方も問診票作成には大切なコンセプトである。

リスク分析のための基本情報

現在治療中の疾患は何か。どのような治療を施されているのか。既往歴は何か。家族歴はどうか。

これまで自然療法を受けたことがあるか。皮膚のトラブルなどはなかったか。

我々のセラピーは合併症を生じることはいくらか少ない。しかし、ゼロではない。予期せぬ結果を回避するためには、これまでの医療情報を把握することが大切である。

クライアントへの頸部マッサージは注意が必要である。マッサージによって血栓が剥離するリスクを伴う。迷走神経反射による徐脈にも注意する。

内服薬やサプリメントの情報収集も重要である。抗凝固療法中のクライアントには、皮下出血に注意が必要である。

あなたにとって、問診を効果的に行うには何が重要だと思いますか・・・？

必要最低限の医学的知識が必要です。

知識は、“なぜなの？”と物事を疑う能力を高めてくれます。

そして・・・

コミュニケーション能力が必要です。

クライアントとのコミュニケーションの善し悪しが、お互いの信頼関係構築に影響を及ぼします。

Etiam Tincidunt

問診をとる

問診票をもとに、セラピーに必要な情報を整理していく。

クライアントが悩んでいる症状について、時間的、空間的な変化をとらえる。

たとえば『むくみ』

時間的な変化としては、朝からむくんでいるのか、午後から夕方にかけてむくみがひどくなるのか。毎日なのか、それとも時々なのか。むくむときのきっかけはありそうか。

空間的な変化としては、局所的なむくみなのか、むくみが全身に及んでくるのか。指輪がきつくなってむくみを自覚したり、靴がきつく感じることで足のむくみを自覚することもある。クライアントが気づきやすい言葉で情報を引き出すことが大切である。

クライアントはこころの問題に触れられたくないと感じることがある。自分は精神病なのかという自問に恐怖を覚えることがある。

ビジュアルなスケールを糸口に、こころの症状を引き出す努力が必要である。逆に、聞いて欲しくて話がとまらないケースもある。共感が必要だが、あくまでも主導権を渡さない。実は、これが結構難しい。

生活習慣と社会的背景



人間は、一人では生きていけない。生きるためには何らかの形で家族、組織、社会との関わりを

持っている。他人との関

わりによって成長する反面、家族や組織がクライアントへの過大なストレスともなり得る。

クライアントの性格、倫理観が自らの心を拘束してしまうこともある。

たとえば慢性のだるさや頭重感を訴える主婦。義理の父や母の介護に献身的な彼女は、強い倫理観のために疲労や睡眠不足が重なって自律神経系のバランス異常を生じているかもしれない。どのようなプランを提示できるか？しかし、我々のセラピーだけで彼女の根本的な社会問題を解決できるだろうか。我々にできること、我々の限界、その双方を見極めてクライアントに向き合う必要がある。



エントランスを入った瞬間、我々の問診は始まっている。

Impression, Communication, and Relationships

問診票の内容に相違なければ、こちらに署名をお願いします。

いきなり誓約書のような署名を求められて、あなたは署名できますか？

からだに悩みを抱えた場合、大抵は病院へ行く。検査の結果、医師に「異常ありませんでしたよ。痛み止めと安定剤を出しますから、のんでみてください。」と言われる。服用しても症状が改善せずに、我々のもとへ訪れるクライアントは少なくない。クライアントは体の悩みに不安を持って、エントランスに佇む。

ファーストコンタクトとなる受付スタッフとのコミュニケーションから問診は始まっている。受付スタッフの対応が心地よければ、クライアントは心を開き始める。

すべてのスタッフが問診に関わりを持っている。

クライアントがエントランスを入った瞬間から、問診が始まっている。

いや、その前にどうして署名したくないのだろうかを自ら問う必要がある。

治療について十分な理解がえられているだろうか。クライアントの疑問点について、納得のいく説明がなされているだろうか。クライアントが望んでいることを十分理解できているだろうか。



クライアントは何を望んでいるのか？ 我々は何ができるのか？

お互いのギャップを埋めるものは何か？

セラピストのみならず、職場のすべてのスタッフが同じビジョンでクライアントに接遇する必要がある。こった内装だけではクライアントの心をはぐすことはできない。

我々の存在は何か、スタッフそれぞれの役割は何か、クライアントがどうなることを望んでいるのか。

クライアントを感じるファーストインプレッションは、効果的問診を展開する上でとても重要な意味を持つ。問診票に自らの個人情報を開示するのである。信頼感がなければ秘匿しておきたい情報だってある。

署名をいやがられた場合、どのように対応するのが適切だろうか。

このようなクライアントもいる。

1時間だけ時間があるので、からだをはぐして欲しいと訪れた出張中のビジネスマン。彼にどのような問診をとるか。またどれだけの時間を問診に費やすべきだろうか。クライアントには1時間しかないのである。

Physical Assessment : Basic

問診、視診、聞診、触診を介して、セラピーのプランニングを行う。

視る

クライアントとのファーストコンタクト

表情、目線

姿勢、歩き方

頭髪、髪型

服装

視診

顔色：紅潮、蒼白

表情：豊か、乏しい

眼：眼球突出、眼球陥凹、眼瞼浮腫

眼球充血、眼球・眼裂の左右差

唇：チアノーゼ、口角炎の有無

頭・頸・肩、背中の軸とバランス

皮膚の色、質感：むくみ、カサカサ

アトピー症状

土色、どす黒さ

体型：肥満、るいそう

爪の形状：栄養障害や臓器障害の可能性

手指のふるえ

運動のぎこちなさ

聞く

発声：声の太さ、嗄声の有無

発語の滑舌：構音障害

会話の内容：支離滅裂など

呼吸音：ヒュウヒュウ、ゼーゼー

息切れ

呼吸のリズム

呼吸回数：頻呼吸

触れる

皮膚の温度：温かい、冷たい

皮膚の湿潤と乾燥

皮膚の弾力性、硬さ

全身・局所のむくみ